

昭和49年度 和歌山県文化功労賞

てら ぐち ひで た ろう
寺 口 秀太郎 (号 関山^{かんざん})

住 所：和歌山県和歌山市

出 身 地：和歌山県

生 年：明治29年

◎業績及び経歴

昭和4年水田竹圃画伯に南画を師事、以来一貫して南画の道に精進されてきた。

昭和5年第2回国際美術展に入選、昭和7年帝国美術院展に入選された。

第2次大戦中、陸軍から慰問画を委嘱され活躍、昭和17年陸軍大臣から感謝状を受けられた。

昭和23年日本全国南画人会を設立、同人となり、現在、日本南画院評議員ならびに国際墨画協会々員、黒潮会、睦林会の常任理事である。

和歌山県展、和歌山市展の審査員であり、昭和47年には県美術家協会副会長を勤められるとともに、県立近大美術館友の会講師や秀蘭会を主宰されるなど後進の指導育成にも尽くされている。

代表作品には、紀三井寺本坊客殿襖絵、同寺地獄極楽図ならびに高野山釈迦文院客殿襖絵などがあるが、氏は日本南画壇の重鎮であるとともに、その発展の原動力として活躍されている。